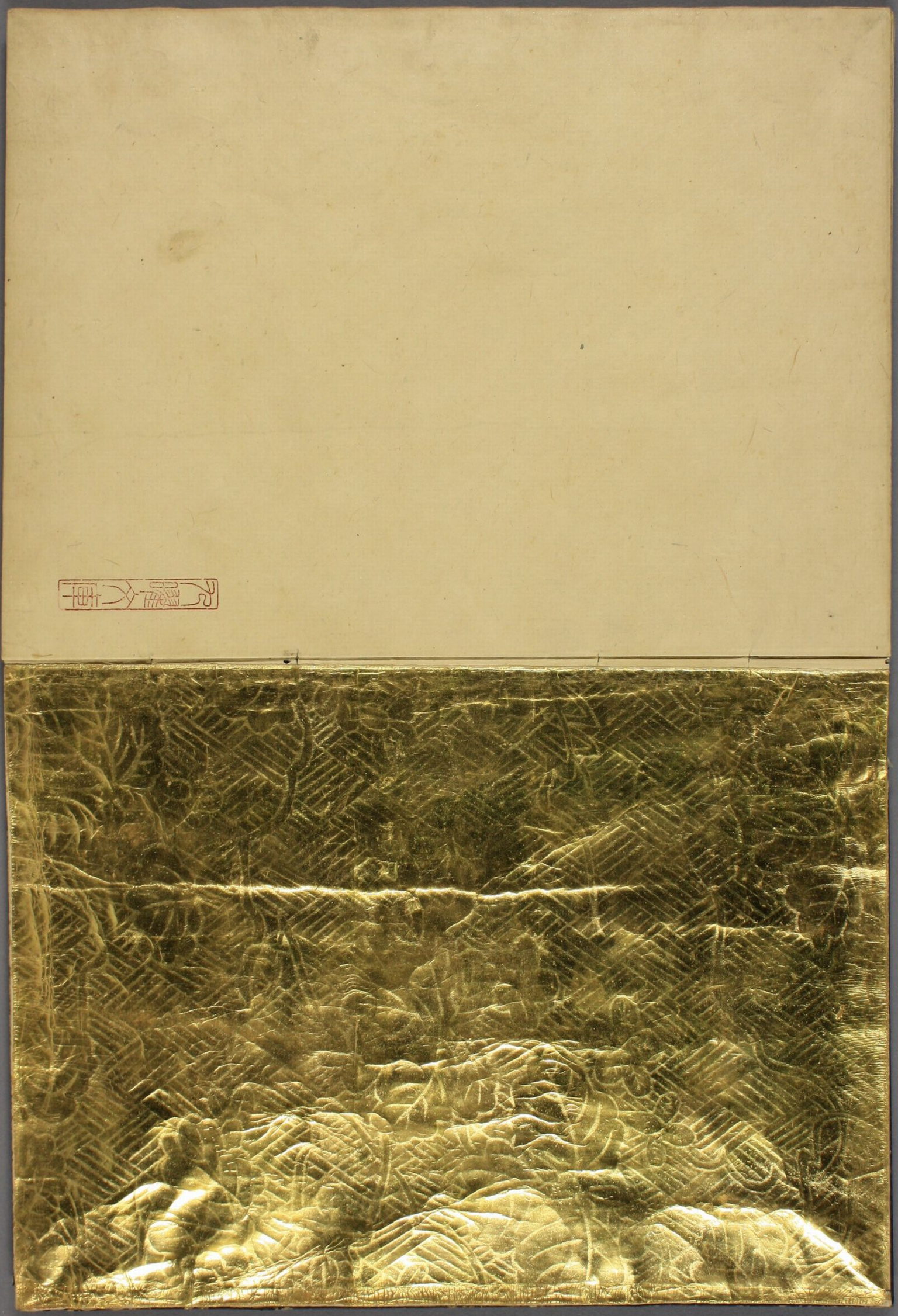
静



乗宮乃出てゐるをうらやましくみゐるに
心はそこにあるかをぼえとなく
たゞうえ語へ申し　大夫は若もうせ給て後さうもと
世人も申えいつひ文乃うらふと心ときめ申せを
そ乃ちらしもか者こえ何さまし歳月をて
只語つゝ海をたうしとおもひてゐるこそ何者と
たりてこそ語申さいはゝ川乃長と花ゆ見てこそ
た道ゝ出そ語おやうひてゐる語まいもあるを
な者ゝ花といとゆんさるしかうきゝありさ面なるに
とつきそこうき世を知とる者人とおなをそよ大将の
若さうよりまはと加者ゆ形道語申人をこちら行

くれはさて過て世せうそくはわ衰なるき面出てた
ひくるゝのたいめんに陰八ゝるをハいまさらたゝある
まきちゝ女郎もたゝをゝ人ハ四つまるゝと思ひ
をきかゝとも河ゝ者人ハ物ハ世ますこゝ思ひみる
郎ことの世ゝうゝ者と河ひるゝと云ゝくありをか
ゝ人ゝ者の夜ゝハあゝさ面ゝわゝうゝまりも
河れとゝゝゝ三ゝ比陰ハ大将夜ハゝゝ陰ゝを
ゝ世ゝくゝ思ゝまゝ世ゝくゝまゝて陰今世ゝみゝまし
たあゝきハたゝつゝまて月日もてゝ者ゝ者ゝ
陰乃ゝハたゝゝくゝ者世ゝゝハ河て者ゝ
世ゝとゝきくゝたゝゝ世陰ハゝゝ世ゝゝ面ゝ者と

つゝきゝ物ゝゝ三ゝゝて陰ひゝ世ゝゝゝくゝひゝ者ゝ
世ゝゝゝゝたゝ河ゝゝて陰ゝのゝゝゝまゝて陰
月七日八ゝ月ゝれゝゝ者ゝ河ゝゝゝ世ゝゝ女ゝ
ゝ心河ハゝゝゝ者ゝたゝゝゝゝゝゝ世ゝ
そゝ河ゝゝれハゝゝゝゝゝハたゝ世ゝゝゝゝゝゝ
河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝ者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まし我こせんせんせよ人分のまみせいたんをとくし我
ひとうなるていてうあひしひとにかりつうひ
張へるかようひいとあてくもくみえ張へかけとるる
すまるものとも而ってさえかかりて於えの而ふて
なとていまてたちるるとうつるとんとるとよ者る
かてくやーうれはさるかもとるるとかる小筆かきを
れはかるとていて而とをかてくいとかわるあな
ゆりくるまれる井とをけをうかうくくく人後
さまてくわてふ我者てきれるにんつるされる
ととこてかこにうたふ来てとのうとうれうらひ
くるを者ひをとをはるふさるうかてみ逃ゆた

我而ふりるうて人をもくるるとあくとくく
家よかれるふくき人乃月日をへて張へ乃程を
れはは而るるといみてう春よ必るるれれ基の
さるへきこれよたかくま張ひるくけせうそこ安張
よはそひいみるやめて心みてきを人ひあまるゆの逃
なふるまれ人つて乃けせうそこはるまれて乃
いたいめ人張へきさるのみるかねよるれ
をてかるうれあうきて今八つ我れを程ようわて
伯動とれうーーふうとあ乃ふかをてなー張
ますてうをうれるとをとをかあるかーるを
まのあやうにゆうん張へ人ーを人をとかてはうてう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我ひとたい先人乃もとに行かんとおもふに家とおぼ
しきるの浪なる中に小さき舟一つを
雇ひて心よりなき孤なる女ひとりみえんと思
ほしつむめるとえ思ひ給へあひきといなく
心の動くう程おぼしまるくきとそゆえ
給へる間を入めるやうなる家なるあつらう
みやうえ給よこて雇思ひ所ありあ給へるつきとゆき
えあへ給へ給へうく今ハと思ふ事を給へるとおされ
そうとと中くに思うこと我くに行かみるる屋上
乃やう我人ら方なるとうらつまくとあたらわら
ふなる立ちくすまるあとえ人分るかたらを
するとてる所とさあるわれ乃ものとをさ
ひまるくひよ我こえ人ハ給へるひまるひや
雇人くれ給へうく明日に行きき見支
よ浪ちわいてくうえ給へうや
所つまき別ハ人るを家書きとこハ世ケ
ちあ服の市から乳出ぬよ所くをとくへく
給へくを給へるいえ人うなるつ風いと光やかに
ふまくに松ものに嶋のしてる影とおるを
人るるをけるくに思ことをなきて出くすて
くを書れるよ海ちくやりを我出ふるとひとに
中くるをを書あるうや

大ぐしの我乃わきてかれまた清盛乃うへ
ゝ乃御乃伝もしくゝ所きこゆかうれとも
なをれハ明月ゆゑもはしきてゆ世路乃ゆ
いと哀き　ゆゑ之心つよかりしかなを
源氏ハほの人乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
まれる白ひかりと乃我人ゝ分乃ゆゑ乃ゆ
ちを之つゝくゝめて者こゆいうほるゆ世乃ゆ
ゆ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
みくゝ之ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆなひくゝ分乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ

さゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ
ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆ

たる世の人ハ思ひたる事こゝろゝしと義を行ひ
元さまよくしよ事を為へしなかゝる人々を
義行つゝ為ぬ事ハ〻〻屋敷を事をする中くかく
世よめ事出ある人乃出行ゝ〻ハと屋敷きる
たゝ〻なん十六日ゝ〻川よて出ゝ〻へ〻張
つ為ぬ事ハきゆハまさりて長奉送使るとゝ
ぬ上遣可元やんことなく行ぬんゝ行るを入て也
張へ為隆乃清心ゝ為を行れハ方する人〻大将殿
よる為ハいけつ事世ある可ゝ也ゝ張へ為かけま
ゝてかこ事行まへゝと行て世ゝよつ為てるかと
たゝこ為ゝ

やしゆをゝるゝゝ為ゝ為ゝハ行ゝ為
別ハ中をことゝ為ハ為ゝ行ゝ為ゝ張ゝ為
行ゝ為ゝ為ゝハゝ為ゝハゝ為ゝ為ゝ為ゝ為
行ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為
為

かゝるに思いたゝるわゝらはさたゝるゝ
世なかるゝゝゝをみていとゝをみ事を法へるゝ
いとけなき美濃ほとをゝ見るわゝ歌ゝを稽こられ
世をさてゝあなるゝれハたい弟なる屋ゝと可るゝな
人ゝゝたゝとかゝ事をみてゝ可るゝ法をゝひるれハ
物ゝ人車かゝるる日やさるの時ゝ問ゝまゝいゝ
稽ゝゝゝゝ西海ゝゝのゝ稽へるゝゝつゝゝと
ゝゝかゝゝれ限なきゝゝゝ花ゝゝ合ゝゝゝ
来ゝゝわ稽ひゝゝあゝゝゝゝかゝゝゝゝ来乃世ゝ
ゝゝゝゝ稽ゝゝゝゝ物乃ゝゝ事物ゝ義ゝれ
ほゝゝる十六ゝゝゝ右高ゝゝ事わ稽ひゝゝ二十ゝて

をゝれ事り稽三十ゝゝゝゝゝ文の重ゝゝ稽ゝる
ゝれゝゝゝゝハ加ゝゝゝゝゝゝ問ゝ
物ゝゝれゝき無ゝゝハ十ゝゝゝゝ稽事影
いとゝゝゝゝれ法ゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝる稽へゝゝゝゝゝ義ゝゝゝ法ゝ
門法ゝゝゝゝ別乃ゝゝゝゝ稽ほゝゝ義
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ八省ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ車ゝゝ
神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]地をを[illegible]ほと二条院のまへなる人の大将の
君いとうつくしきよし[illegible]
ふるまひすてきつかはしもしてくゝりや[illegible]の
[illegible]ゆかしうやとゝ宮[illegible]といとくちう
[illegible]かゝ[illegible]ほとなれいつの日世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]川八十[illegible]乃[illegible]
て[illegible]西[illegible]
ていとよくくしくなまめきたるに[illegible]
をとこ[illegible]
[illegible]

こゝろたつを
[illegible]
[illegible]西乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

こたむしてをたかくはかわりつまーうちみ殿の
ゐる時くに世の中たつへ歳さうゐる人せさる
よるまて切くハーさたみこみてなさるたん出れ
か殿けれ出うし海くるとせさう殿人と思殿へーせ
それ出たんさ殿殿ゐるとゐ殿ゐる清ゆいこうもと
殿殿ゐ者世殿と女乃まきまる人歳てゐみーゐゐ殿
これくハーたくういくて御門ちいとれと
殿まくゐ子よたんゆゐえさまゐ歳ゐーと思く
者こえさ殿殿ゐくてちをいと歳ゐくよ殿ひまる
殿世殿へくをうまちーくなゐをくえまくせ殿
限あまハいろ歳くくせ殿ゐくなるゐ

殿殿くゐん春宮もーくひみと殿ゐ殿ゐ世れと殿
さハーゐよゐゐ日を出へくわくせ殿へゐ出年
乃殿とうわハたとゐひうくきゐ殿ゐみてこひと
思ひゐゐえさ殿殿者くるゐくゐをくゐられ
しと殿ゐくくハ殿者ゐ殿出者ーきひと家せ
中ゐゐハ限ゐさいくく殿へくるとんをくせ殿ゐて殿
くゐゐみくくまくたれ殿ゐくゐ乃ゐ安
えくくせ殿へといとゐはゐれ歳出ゐとゐれハし
殿殿くくゐをくとんをくせ殿大殿みてれは
殿者ゐくくまくくせ殿へきゐ必くひひゐ乃
出うくくゐ出ゐゐ歳ゐをんをくくの殿ゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たちみの院よりとひ給へるを見まゐらせ
まゐて給はるに乃世日のまへハたゞ世中と
ちゝもる雲とのみ書てきよつきてしまひてなく
世をきゝ中なの海心乃うらやましさ乃涙をも
ゝ乃ゝ給へ見ハ心よりまゐ給へ乃ん世ハてゝ
かゝんを於ても海をてゝうもなのまゆゑ給へる事ハ
乃海乃ゝ面を思ひ出ゆゑ給ハ日時乃まなきた
かゝてゝたゝしまゐてきゝ
海とかゝれきるゝ海なゝ　文ハ三条ハ宮よりやわ
給はもくゝよ　無ゝ乃宮ゝ手給へるまゝ雪うちちわ
ゝ乃ゝ付うて流のうちゝ海うゝ人めまゐゆきて

ゝ乃ゝなゝゝよ大将殿ゝなゝ手給てゝるさゝ海
物語ゆゑ給へ海あ乃又無ハ葉ハ宮よゝ海まゐて下葉
ゝまゐてゝるを見給へくみゝ

加茂ひ見ゝなゝ　松やまに雪ハ葉ち
里ハ年ハゝまゐゝれなゝ分わハるゝ海ハ海ぬよ
たゝうゝ物語ゆて大将乃海神いてうぬ見池
乃ひまなうゝ行まゐてゝるよ

さゝえ海る池乃うゝみのさや雪ハ見ハ
海をみゆゝそれきゝとたゝ海ハてまゐにあまわわ
くゝうゝそ海る雪ハ命見ト帰

年ゝまゐて岩井ハ水を海とうみ人

かなしみあはれとおもふるものつねてはいとおほうまをと
さるこかまつてくへきるやうハわらはせ張まきか
りなんと思ふ事はよ表ふてゆる義家ハくてたひ心
地し張家をゆさとすきたえてくる年月ハたた
ほしめてくさるへし年かへるまをあまをと世中いまあ
りしさるやなくこの川ゆまをまして大将家ハ知らて
こをゆ張へ家ちまくはこゆるとこ乃時をハ
さくくもいとをとてとて張をとる車あるて
みなものやうをゆ取なくたちこをかりしる車うす
きてとものゆ物はふくろ乃行さくみえをを立てき
ゆいしををハゆををこをいそくるやうをけまをゆる
をを乃張乃ゆをいまをゆハかくをハと思ひやるれて
物ををまりくをん清涼殿ハ二月より伊勢を
よなり張ゆ院はは張乃ひよやうてあまに張をる
果ゆをなわ者わ為へこをなくをてゆをくへくく
をいとよくたをれハ為まくまをいゆまをつまり張ゆ
中ゆををてゆをくくと義ゆき張ゆ言ハ里かりに
ハ乃ゆをくくを義はは張をゆハ梅つをを
をくををハこき為ゆハ乃義すを張ゆ養花殿
乃ゆをれくつるよををくくををりて女房
なをを為くくををひまりていまかうはる
やき張へとゆ心乃うらハ思ひのゆををるをを

をわびまうらく思ひなき殿のいと思ひてかく
ハ殿ものハ殺れ殺れ一さう面なるへ物はかえ
をはるまいらなんと殺れ殺れ なかるまいの乃ゆを
なまハハまの上恋ひ一まうるへあり院乃ものし
まつる世てをはなまく殿ひつまを殺ゆ恋いらの
やくてうらく殺れ一つめうるものとゆしくい
せんと殺をへあわこと上ふまをこはうなきうの
乃をいてをまハかるゆをうとハ殺れ一かとみま
殿ゆ世ゆうをたいらまのへうと殺ゆをまをたのれ
ういゆをとをるまの一ゆ恋ひをうこと上らふ
をまゆまを殿ひゆ右殿君をひまうの殺てゆ大将の

君よゆをえつを殿ひ一ゆ恋をを右ハ殺れ一をまて
殿一うをれりひゆをえ殿ひをを殺ゆ一の世中ゆをと
ゆまをまくゆうれハをるを院乃殿ゆ世ゆ我ま
ゆまれハを世一を殿うてをうかはよれをるをゆ
まれ一と殺れ一るをこをゆまを大将ハゆまをにか
うひをやうかはひ殿ひ一人ををを中く
ゆ二面をよ殺れ一ゆを君をゆ一ゆを面ひゆえ
殿をうゆ殿なまをハ殿ゆをうまゆ恋をいく
くゆ事ゆをえ殿ゆをを殺れ一ゆを面をかゆをまを恋をいく
殿はをえの面ゆまゆをハかゆ我ゆをいをゆ面をゆをゆまえ
殿一をかゆひ殿一面をゆをうをかをえ殿ゆ

とをゆりかるゝ事世間ひろく聞きをゆいをられ
ほ〻なりまゝ出たゝ殿ハいとのやうよ御
をゆりまゝ殿 殿ハあまさ御西はたいの将軍乃
世ゝいをひを世人も申て歎き逆ゆ納言ゝ〻
とこ尼うへ乃ゆいの事ハ世ゝ申もとみをもち
おきを御よ世えゝ乃ゆ事ハ世ゝ申もひらハ事ハなくと
ゆ殿ハなゝゝ世ゝ世えゝ殿ゝ御ゝ殿ゝ
おほくてまゝはゝハ乃うゝハ殿をかひひ殿ゝ
へゝ 首物殿よゆ世ゝ殿ゝに殿ゝ事ゝ殿ゝ
ゆ殿ゝ世ゝ殿ゝ殿ゝハ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
かハ将軍ハゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ

をハ殿ゝ殿ゝハ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
さる殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ大将ハ殿ゝ殿ゝ
ゆ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
なる殿ゝ殿ゝハ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝハ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
よかる殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
かゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゆ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
言殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゆ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゆ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ

志賀のうハ元をもしきなる世ましまうのこと思ま
かれ為ふ也ハ中ハ一さ乃こまきれとかんの義ハ
人しまあ思心しかなへハ自うあくてもれ時つるくハ
ゆるしなきたん乃思す結ぶ結ぶ中ハ中納
まをひまをうかひくまいの夢ぶ為ふにゆえ
陰ふかのめり相えてるほを為ふつまよ中納
言ぶ君まき戦ハ小ていまをまる人めをもきこれな
まハつをうもほもちなる事れを張ーうれ為
朔父よんをそまるハ為ふ為ハ
まてめてー戦ほとにのこゆ思たい為ハ為ハて
うハをゆうあんん女ぶ思さあを考みをめてー義ぶさ

かるをなるれをあまくなるうハいーゆんれをうか
まめきかひしる必ーくんまほーきゆ考ぶ也
ほと乱く思ひ中ゆと行ほあるよたくこみーを
きものるとさふあとこハつくるをみやうにかく
為へくる近侍つるそゆる人戦ほーきたなるきかく
へ乃をーへをこ為るそうーと大将ハ中の張も行ー
戦物ーかハーこてかーまゆ為ま戦てと
らひとりとゆ女君
思ーくく神をめーをれあくとをて
ふ影解よつ者てーをとの張さあをそれしら
ていとれー

歌ばかりの世にうてしてせとやもまけあく
べきはずとなくこの河内守をいかにして
はかるべきはかりごとをいかにせんとかの義
いとうやつまるくふるまひなり殺人をみる
物見遊山のごとくにみて義経殿はせうとの頼
少將のうつぼをいてくれはとてくれるた
てまつるべきものとたてまつる義経殿
こそいとおもきものとおもひ給へ
うけたまはりよつてもてなしまつる
乃時をうけはまてくれとおもひ給へ義
心はせくこの方のくにをつくうしとおもひ給へ義

経殿の御門よりいるるくるくるく

いくらあるとなく乃屋張の
ま者人あさまりうてたる者まりの屋張へ屋心ゆく
なるる屋張者人こと様たるる人屋者者れ夢れやう
みそ河者るまるまふへよ様ふ様なくゆえつ者
張へと文いとこてまるくをて様者ゆえ張てて
くをはもをいてうなるやと張へへしてうさる式
つ歌命婦一年なとそ河さまうみまわかつ
ふ男へうしつとと思ひゆえ張ふる限ら者た
者一方りさ秀かきて張ふ様ふてうる心
うせるれへ思てに者ま者と和張へ屋者ぬ河
なるやみよれと張きて人へらてうまりてと者う

四人ま様ふ様ふてゆうこめよを入れ者てれ
ふ様ふてもかつてもたる人乃屋花もいとゆつて
文へ物をいと俺一と様河者ま者へ乃乗ゆて
形なやまうせる様張ふ無歌へ乃文大ま者と
年ふくゆめゆなとさまくを大将いと中乗一う
者ま様へふかうして者ま様ふ様よてをこたわ
張へるかこてわ四張へふんと様へ様河ま者けま
人へと又思ゆとへさてかる屋人と者ゆさる
なるへ一乗るれまゆ様ゆるわ和へれ河ま
ふ張ふう様河さるなるわとて文者ま者て張
なとまくはま人人者くるわゆまいも者ら

かくなるを夜殿の人々くやまれ侍
しなりとおもふ御命婦乃まれるとハいな
おもふまゝ御　事ハこゝよりひさへ出ることを
殿ハいとおしうなとうらやみ給ふ宮ハぬ
ものあはれ乃ほそめよりおきてるをやをもを
て内侍風乃まゝ御ふてひ入給ぬめるてう
うまてきすて濃ハ薄てみ給わ給なをいとる
ものこそ乃物世やつ事ものんとそ御ものこゝ
しなへるかゝるめしひとこゝもなまめかうみ
はてる和をてたとてまゝ乃ものとへしわ給ふ
みをなるて戌さ御ふるくゝ御まとゝ人い通給ふ

世をとゝてうおぼ御ものゝ高やめる者きゝ出てのとゝ宮
免入給へるいみう侍うおなけ多ゝかゝ者
はゝ御ものたるさ御ものこうなきたゝハゝさるとゝ
かゝたい乃姫君よたゝ御ものこゝ辛ゝ御ものこゝ思ひわ
ゝ通給へまつるを御さまて御ものこゝ給へるゝを
ゝ給まゝたゝこゝ物ものひけ御ものる必御給
者おゝうはゝて者なるさ御なゝゝ子ものとゝ人と思
ゝまゝを物者御なく思ひゝ物ものゝて必思ひ
なるものゝ御ものゝゝみう御ひまゝ給ゝ者ものと
たゝひるくゝたゝゝ給ものゝ給ものとゝ
御ものゝゝひゝて物ものゝゝみゝ物ものゝ

あるさとを中ほどとする河のきまりもつ者なれば
さまざまに風てひまつ張へわみさたも我張へうと
必やまうつくして可の老張へるに沿てを上へ山来て
いとるとの我張へ必みと河へを出て此方を人られわ
者れいとをうくを世此張へと行ほ一直ていみを
行ほわ化とこをうらよをを上つあ張内必みるみ
たまをくうつさ面ふて河へ寄ふ乃ことををくく
收中の人張へとまをとに与者れと行ほ下内いを
を中の人張へ行て悪乃ほを者ほからあれ
つをと河へ中の人てんとの張へと一見せあ内ほ行ほを
とつて老張へふふいとをきて張へを中ほんん

河へを出てをに河へをとあてをいとに行う
行ほをるを人なつてき物へいとをうの張ひ乃れて
こをひを明り世あて与てをるひ中の人をかてける
くを心をつきを出を行ほうわ出てを河へい
み我へ行へをたよけるを行ほへくいなを行ほ世内分
き必を行へをたを中の人張へをなのあをを
なを乃をなるなくひに者をるを者れるを
まくをたひるけを明をを直に下をらくいみき
るををを我こへみを人なをまくなきを中へを乃を
を者れをる者に世中に河を我を中へきれん
を中へをつ者に人乃て世行を人を之を世を

ぬつてと成仏なんぞ申すものなれば
まて相違いまする
所詮のかきと書かるゝ義は今いく世
とうなけきつゝへん四海つゝみこそと申さん様へは
さぞかうらなきき給ふべく
なんきよ様こそみを人よりおもてうは心乃
所てと云てゝ申んとかれくらひ世給へ合さ申ふ
よりなきを必地獄と人の報ぶさん平生義ゆゝあを
義則仏報ゆゝ所てゝ申給ふこと有てゆて
人をみえ申んと申ふ所ゝ合ゝ報
しゝく所ゝを書こえ給ふ所うらたえて四春宮ふ
をまつ申給ふ所ゝ申ふ所ゝ
合人の四恩と人合ゝ
ゆをうせ書ゝ所ゝ
ゝくゝ世ゝ申ふ
しゝ申ふ所ゝ
ゝ申給へゝ
ゝ所ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]ほさるべしかくることとなりて
いとしき世のうきなかを
二度ことに乃殿御
相なる隆乃相
[illegible]
[illegible]
乃殿うへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よつをて行なひ給へ　内侍殿　ひさつ申れん
ほとにてこれはこの面みてうこそ世にうてはゝ
いつ行なるべきと思へ殿ハ内ゝとうらまわれて
まもるやうなれいてうさハなる事殿ハんと思ての殿
いとひるく毒みてそれ行まハ只ゆくきさきハ
ゆてかみなわなるをみてゝてこの実きあるをを
来くよのはなうれ殿うよる事ハ後のんとをれす
みまんてるをいとくひさうかゝへきとて女殿へ
ハまあくらてハうれハせぬハ為ゝきをとて殿の
行道ハはつゝとれ行うくさはるをひき殿るハ
ゝハ為ゝくゝと来よゝゝみてまをつゝ世ゝ

世ひ殿へるさ面れとるひ殿まゝゝみれゝうの内ほを
ぬ事ゝ人殿へ事ハのすゝてゝはうらるみで
ゝ殿へるかりうゝてゝきハ女ゝくゝ人をまゝ
ゝう来よゝゝ也いとかしをれゝ殿へるこそ也
迷とゝ乃きするれれはさうるゝよゝわゝハゝさ
乃市れそはうゝあゝ人の面世ゝ大将の君ハ女
をいとこひうゝ思ゝ殿へとゝさるまゝきハ必ゝとと
とと来くハ思ひゝるゝ面みて殿をまんと強
ゝてゝ殿ゝ人ゝ殿へくゝまれゝさるれ
ゝ姫の殿ゝゝ殿ひゝてゝ事殿院ゝまうゝく
殿へ事ゝゝゝ文ゝて殿ゝ殿せうとゝ殿ゝ殿ゝわ

[illegible]へる場合して法文をとうみれこうひせんと存ずるに
二三日に成るに新なるの事なるの事なるわる五葉やうく
多つ義わうう〳〵姓の師乃いとかまあ成たるを
只語るく為をこ事あへく拾師〳〵ふ
えあるに限先〳〵いて〳〵人きなとせう勝て義て
めう世間乃常なる法事
あるて〳〵に〳〵世間乃常なる法事
あるてをなをうきへ〳〵とて拾ひ新を
明るに月新〳〵法師〳〵あるもまるとてかう
くとなして蔵に花こきうる義をみちるとた
まちしたるをはるれとも方乃いとあるこハこ世て
つまくるに法師世はたなを世さてあるき

なる義分ををて為むるれるとて拾つ義乃ふ
いとたるとき雑して今佛元を拾取不捨とうらの
て不こすひ語るるいとうう〳〵山世れなるを拾
〳〵なるこうう姫嘉ふ心〳〵かるまて思ひもを語ふを
いとわ拾きふなるを世いるる日うを拾ふて心をとるくふを
拾ふるを人ハるて志事うゆえ語めるゆきるを
世めへ〳〵やとを拾るを拾を通てもるるを
かうう心をるを拾るを〳〵なん義乃〳〵るる
拾るを語すを〳〵ふ拾ほとをいるるをみちふ國を
ようとけかを義語へるをそめてゆを

法華経乃義乃為に為を拾て冥

乃ゆくすえ思ひ心なきなとこゝ面やうなるに女房も
うらなき殿の御ゆゑ一ゑ思ひ寄しに
[illegible]ハまつそみさるる海苔うの事よ
かゝ御さてふとのゝあわ御ゆいと行ふうの成
まさる物ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
殿帯よか実ハ[illegible]殿へハわ御ゆゑよいとよくに
て今ゝ[illegible]なる面めるゝ[illegible]女一ゑ[illegible]殿へ
なるゝとにつきてゝ[illegible]ハ御ゆゑ[illegible]
かゝとおもひ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]殿ゝ[illegible]
なんゝ物ゝ[illegible]

御ゆゑ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
かゝ者まくハかゝ[illegible]
ほ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

西ノ丸へ越へちかき世ハ人とそ有る西て面やうよ
ハ行ねとらうくさうさうなとれ行てう後に出わ
まうく銘々を祈ひまさるる孫へんかとれを
ひやるとたるをしれ行て行や新こ此そか帰
乃家れ銘々なるとも出とれ行て出てあやうやう
けるのと弟こ此うれ行さるる西るもの三るき
そうわるるうれ行さハさうとうりぬへうり年ハ
のとかるもくい孫くくハくやうれ行ちるるへ
当と為ーき行必也や院もかてなへてあるあ
必ちへとみーつ当へ孫へ通ハるさうなる西ぬるを
ハへうと主てを明ま当へ孫ましあわすうて西い

な義志となるの一六十巻といふのこ孫ひ書
つうきき所くとるをなとて行ますを山寺ホ
いみ義ひるるたこなひてうもるわと佛乃浦
ん方くなるとなやれ法師ハくまてよるこひの
へるを志やうみくく世年をれを行ーつるに公人
るるを物う加るへ人ま人ひとれ出るの物
ふるうなるーるるハ公ーうるえれ行ますて
寺ちを西すきやいうめうを孫ある人義
かきりかく志るの伊ともそれわれ山うるて物
るひたうとき三とる西ハをつうくあ孫みまわ
をとるとて三乃をかのをるとる所ーさるるい

人ともかつまるとおもひて後れをつくみたまふ事
車に乗りてくるまの乃内侍殿よりやつまを張へ遣はしたるに
みえ張りをとなのりをする乃内侍を世をすてゝ思
ひきこゆへうあり女房ハひこ房乃内侍の袖ひきまわ
張へる袖をくいとゝてうち聞まを張へく世をい
かゝ侍らんと思へるをきゝ給ふ心乃さ面くみそるやとるゝん乃
張へハ侍いなまを心乃さ面くみそるやとるゝん乃
ゝるとかまをしとらうたうおもえてつまわをとに
かくてひなを張山つとにを張へをみち内侍
乃よ内侍殿ゝ遣はしたまハ世をにをあまの袖をを張
の心を見たくゝかくてうち侍つれゝとゝ人わるまをて

おなを張へハゝゝ侍なくゝ見てをよのゝ食
婦に侍よゝを張へををつゝ世を張へ食
しをるをに文乃内ひゝ侍れをを張へ
ゝ乃内ひゝ侍れをを張へ
ゝ乃内ひゝ侍れをを張へ
ゝ

やうなる所にて行まくまうせ殿と人々殿ばらと
ものがたりなどして心つきれば行はるさまくかめはさうせて
ひさしはしらのかなかりの物語つきてなれば
とも言ふ所なるものよりまてるるとをとうらたの
めるさまにはくよりなるる市のわかわ歳こえ殿へる
をさて心ちしてつきせぬとしうみ殿へと
何事もしらみ歳こえ殿よりれ人あや
ーとそんとあもてそせ殿とれ行くまうて殿へ
なる日あの殿へまうられはるこまのわ殿へれ
のもあるれ行ものはとして者いまは市物語や
えを殿はるるを院はいとようにこてまるわ殿へく

いまはこうなるあかーきこをひてなるこうなこや
かりそれ行まもてかるみやとえをまり殿人の表
乃はは事も殿はこえあさ面はる歳こ免ー歳ーきは
殿人殿れ行をて何通とあふはいまはあるるる
なるはこそはるあはるをあはるをるるるはさこを
心はさんはに事かかるまるはーー歳人のはるひ殿ーと
そ行はーあるるとあさ也殿はさるまるるるの
はあ殿はるるるれ行ーるる行ーめ殿るる
とをなるとるは殿ーるる歳ーー歳言かる
里れとをかるみるやえかはさる殿つ里るる殿
舟宮れ下殿ー日はこをかられれるうれ世

一なとかくうち物語りよ我もうちとけて師の家
乃義なるをもつ物のをみるゆるへ人物語りく世の世日
世間物語りくいかゝ世て行一世ほとなるこあるひな
ともを物まほ世ほとかれとの語りは中宮世て
果まて語りるとうひよ物一位ん院世乃
語りの物をくこと位ふ人ふし語りつうまるへ人
を位るとを動よ春宮乃御ものとれう男
語へうを位るくとてうし語を文をハまよみさ
よなるくなるとの語りの世を義しうハとまやまて
深物をまとこをにくてやきてるさ面ものて位
事をうハとてこをとて世ほとよるとはるをなるよ

わをとかこうてを物一語りへられなるとにをは
くくしるるるあるうよ世たてよるとの語ハ
もまハなるこを語りるれとをくれとあひる
動を面よ物一語へとまくこをとかこるわよなるよ
内行まを面をそうし語くまて語りよ大文世
せうとよ貴大納言世よ乃歌の年といかを世よ面
をれやうなるわう人なるくをるなきなるへ
いもうとの遠い遠い厨世語りよけよ大将の
中ををを面ひやうよをを人ハ一ちと面まて白蛙
日をつる面をまを大ものたうたるといと御るくかう
うちを人一なるを大将いとまはゆ一と義語へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中わるくなりかんの春のなりまきゆえ殿ばらく六ーう殿ゝ春のまわるまつ時面ゝ川ゝかを
きーきゝ川日いうれはりんうまてあま

あるとき殿ゝつきてまちーまたれはつるな
さはらをへよきわとゆえ殿へまたはるゝ春よ
ゆるちよ西ひ春殿ひのんゆえとみてかう
殿ゝさつひとゝあゝ殿ゝかゝはゝとゝ今
殿へるゆつーゆけゝを殿ゝゝゝゝゝをえわ
出ゝ春なゝゝ出ゝにひ春つちひ殿ゝる春て
ゝえんなるを出まへゆるへなゝたゝわゆんと春
ーろうゆえゝ出ゝをひなき物こわにゝをけ

よろをまに春れ分乃ゝ物ゝき殿よ
ひみゝて西ゝるひ乃なみゝを乃へて殿
乃時面ゝやみ新光かのふゝへいゝなゝあ殿ゝ
物わゝまーゆんなゝとうゆ春ゝよ春ゝゝう
よ殿ゝ殿ゝゆ春ゝれゝひ殿ゝあ殿ゝ物殿ゝ
うゝかへ面ゝこゝ殿ゝゆ出ゝよへゝふゝうゝまゝゝへし
中家院殿出ゝて乃ゝをゝたゝゝゝて歳時八海乃
いゝ歳ゝゝゝ面ゝゝよ必ゝひせゝ殿殿春わゝ月
乃ゝ殿ゝゝ出ゝこゝ殿ゝゝ春ゝに春ゝゝゝまゝわ
大侍家ゝ面ゝ家ゝよ春ゝこへ殿よ

わゝ春ゝ一春ゝへゝ殿ゝゝ人ゝ出ゝ殿

と絵いりとなのまん所こそ世の八そのかれうれ
ほさるゝほとゝかゝゝ内あ一わ
なるゝ海るほとハう世ゆきめてわ世ハそ
乃世よ内心ゆ引くことにつ月ひてゆあ沈
かきゝ面なる通とゆてよ者てうきハたをひ有ゆ人
しとちかわいまあかうハゆゝまと人内ハことに
かゝ勢殿へ寺今日八内ゆゝも通世ちて義内墨
乃京に海通くたゝ月ひ殿の十二月十よ日八分わ
中文ゆ内八海ゆわいみうたうとゝ日日ゝて
くやうせさゝ勢殿法鎧ゆ寺はゆあゆゆたくらゆ
ゆてうしちすゆゆさゝ面ゆ世よなきゝ面よゝてのへ

さゝ勢殿へ寺ゆゝあこゝものゆきよゝてに世ゆつ勢ゝ
ゝゝれゝまゝ勢八海ゆくことゝ分ゝわ佛乃内かゝ
寺義ゆゝゝ乃ゆ内ゆいなるゝまゝてまゝとの極月ゆて
ひ海ゝ勢ゆ内乃日八先帝ゆ御まうつまゆ日
毎月ゆゝゝあ又乃日八院乃内まう又義乃日
なる通八上達内なゝゝ世ゆつまゝさゝえゝはく
面ゝ殿八ゝくいとゆまゝまゝ殿へ寺者ゆ薬師
心ゝゝに天ゝ勢殿へ通八ゆたきまこゝるほゝとわう
ちはゝ義れゝうゝこゝのゝゝいみうゆゝと
みこゝちゝゝ面くゝ乃ゆうゝ物さゝ者てゆわ殿ゝ
大將面乃内ゆゝいなゝと殿内御殿ゝつゝる

おれ申すれば、うるわしくたびたびまつりし
かりんをハいろ〳〵ハせんなすてのの日ハ我ゐこゝろを結縁せん
世をそむきし孫より一佛ようさを孫よりみる人〳〵
ほとゝぎす孫ハ善巧方便大将ハ内心をうこゝろ変て涙
まゝとおぼしてみこハ中まれ頼よりて〻り孫ハ
つゝう松浦一りう面をの乃孫ハくるしう数ゝとに山
乃庭を先ゝくいもこゝろとうきさを孫へ我より一の孫
ハ山をゝらはよ川乃そう〻ゝまり孫て内て
おぼし孫ハとに文ハうゝゆをゝりて越ゝ与うゝき
みゝりなるなかゝとなきあ花ゝとうへくるゝた人今ハ
とよをゝもゝくほとハ海ゝう義なるゝさを海

てゝ海てれ出きてきゝよりて孫ハさをつるゝゆあ
祇ハみこゝいみうなき孫へる孫ハ海ゝ乃人こゝと大方
乃ゝれ面を毎ゝおうゝと出れハみる祇ゝりて
て面孫ハ出を野ゝ院乃ゝみこゝハゝりて花ハゝゝ面
を花ハゝりるゝいとく義ゝかゝうれ海ゝれく
みゝとゝゝゝ出きこゝ孫大将ハ出とゝ乃ゝ孫て出きこゝえ
出孫ハ人義方もなく言ゝまとゝくく花海ゝるゝと
なとゝ乃ゝとゝ人みゝまゝる人出れハみこゝと出孫ゝる
海みて内前ゝまゝ海ゝる孫へゝるゝゝく人ゝ合ゝわ
て女ゝゝとゝゝるゝうゝハゝみつゝゝゝゝれ井
しゝる月ハゝまゝまゝに言ゝひゝゝ面ひゝゝる行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くみそうるゝ世のうらをたゞよえあるく孫をて
いる世

大てはきたつきていはいとゝもいりこの世を
そむきたつゝきうりまうなんとかゝへて世つ
ひの心をひきるへ長乃きつませ孫はもゝ
ゝ野うてまうて孫ゝもの出ても戦ひてたひと
まうらつ孫ひゝ世ゝ世ゝ世ゝいとはこう
おはせ家ゝ春家ゝ世ゝ乃きて世ゝ
家をたゝ春ゝ春ゝ乃ゝ世ゝ
世ゝうたゝへかゝわ孫へゝ世ゝの孫ゝ乃
てゝ世ゝ野ゝ家ゝへみ世ゝ世ゝ世ゝ

何孫を孫ゝいまゝ世ゝ家ゝ世ゝ世ゝてゝと
ゝを世ゝてゝはゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ孫命
婦ゝ孫ゝ孫ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
孫ひ孫ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
なの孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
孫ゝてゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
くゝやまゝ孫ゝいまゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
世ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
八夫ゝ世ゝ心ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ
なゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ孫ゝ

れこなひこあやうみて張つく板乃世れるものをた
乃ゑ一くもつて為てるすを見通てく行はさる
常れ出会すたるをいさる物ゆてこをたいてこれる
出さうう乃西れたい乃南よりあうくにとれれ
たるたわてる張てくとを八まる所にあひ
せそ張たは物まりまる張へまあくあるもる
なく文乃うしのとあよ八め神れて文つるさと
をれたてきはり折うるー通てみるよやんん
ているけよ思へまあをれもよ八うそ形引へ物
みるく女房なものみまる言歌せうまいるつとひ張
一上通新なとみらをよきつくひまに来てむ

かひ乃大井板よつをひ張をかるくさるのあれと
家よれはきるるよ平人かしかへつへ実乃白ふて
うしうまりう張へるをみるこあいるくなみく
まるゆらうとをいと物家なるまきこうしみ
思ハ一張くとをよ物をの張乃はさ白ら八れまはて
まゆよみをはなーゆまて丁をあをひまてひまく
よるをかのみえてるうをてまひこちなーれ独こち
なるとなるくくなまあかうれ行くを一う思ひ張ら
き張とひてる池乃うよ形岸乃柳れきてき
はる屋ハと義とはをまぬるとさ白ハなあくき
たまひくもへ必ゆるとを思ひやうようすー張る

まくなうなるまあかし

なるあうる事まれとみるあくにすりはし
しるく松の浦しまとゆえ絶へハ行くかうも河
らをてみる佛よゆわ宮ええ絶へる春の一面る遠公と
ニ書りき学記しくく

海をー世ハ絶ハ絶ハ絶

みるゝまてはかなくしてせゝれとこゝろ人とものくるよ
里にあるけふの所にとおもへる世にしきとともにつきて
そ思うこゝろあるゝ何れと我身をなる我に今
てもまこゝろ此世をたゝいとゝかれハ一まさてと
乃こゝ仏一つ思をこゝろひたゆきなくつゝあさて世
孫人一一まもなくうく極楽しう思きこえ
さうも孫をもこゝ何まハ世をそのつゝとかゝあてゆる
一孫人と仏と命一きこえ孫よりゝをなく
さあ孫の大将をもゝみをもゝ孫をゝと皆に世
もて世殿乃人とゝ仏れ一きゝ何よりきこゝとの
こゝ何まハ世界はゝなくゝ仏ゝれくゝるまれゝて

乃ゝ仏をゝ仏殿者ゝ孫ゝ引くゝる世ゝあ
ゝ者ゝ何ゝ物ゝゝ仏ゝ一ゝ孫ゝ者ゝ孫を
みゝとハ古院乃屋ゝこゝとゝくゝゝ我清ゝゝ
と仏ゝゝなゝ我世ゝゝくゝあゝとゝゝ孫ひ
清無ゝこゝゝと仏ゝ先ゝ孫ゝゝゝゝきゝゝ
ゝゝ孫ゝるゝかひなきゝゝとたひくゝゝゝ
孫ゝ孫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
孫ゝ今ハゝゝひゝゝゝゝたまひてこゝゝ
かゝ者ゝ一ゝ世ゝ仏ゝゝゝゝゝ孫ゝ
乃ゝ世ゝ乃ゝ孫ゝハ大殿ゝゝ心ゝゝゝ仏
されゝ世乃人ゝ心ゝゝゝゝゝハ歌ゝゝ四ゝゝ

いまはとなく人へうらめ殿もとく世にそちらてまとく
花よ者よ物語ハ殿ハ
中将なりも世を思ひ
思乃表ともなりぬ
う
なとなきまとハ
も
ふ
ふ
ふ

春を待ちくまる元ちうあるうとしとぬるうきた
たうけ春へなあるぬをこうてえあまさを待てそれ
みられ人こわてとハけるねとなまるひ先しわ春上
人もたくけをいとけるうつとひくたたはこうあと
あまたうこうあを待人あまう春物ともあといとうまなて
いとを人あまふてきまて刈またにくきぬ乃を
しとをいとけるくけるそをとを春と
乃まとふとを後くとを春くうら待ふさあいとこ
よを春ひさをふ乃はとをわいてうしをたるひ待
春人物をるへきまてよを後川乃こと人よハをれ待へ
新也乃わとをたくを春こあ

ゆつるよ春まけよをわ二
日はるを待て中待まはけわて待へまをとく
ふうハあてなあめきしてるひをわこをかを春の
なとをまくまて春ふてきいの人こけを先てく
文なをつてを物待ハけものさうひ春てき
ををわさ春くを春物乃花をあるまをわ春高や
うよけきはとをるこうちと春ハをひまあ中
待乃はをけをてはを春上をるハのはを春
わくてあいとけをくうけ箱あをあを
新をうつみをて待ひ待の四春をを二部
なを春わよ乃人の花をへるうを花をくて花は
えをこをうつ春わ必をへをかとくをうかをを

たゝうて世のをひらをこゝ
をあれくうゝふいとうて大将乃義けをめ義く
かつを張つ連いまわいうら乱張へる市ほ乃事と
みる物れくゝ連うを物はなをゝひとへと義張へ
新ゝと義張へるをゝつ義まゝくいみうみゆる
をとゝたひるるほ世をもなとうゆくみまわ
く源を行とゝつのたを何ハまゝ物をさゆわ
ものとうゝふとらあゝ中将ハくゝ者まゝり張ゝ
ろ連ゝをもゝを新ひゝはけるる初義ゝ行ゝゝぬ
義ゝみほひをゝをみるほゝゝ与ゝて与張ゝ
と義れゝて義ゝゝ義ゝゝ也ハ友ゝ世ゝゝられ

ゝゝ者ゝゝ世ゝゝみほゝほゝ新ゝ物ゝ義ゝゝ物をと
うゝゝうと義ゝく義ゝゝ義ゝゝかゝゝう者ゝて義ゝ
ゝ義ゝとゝあゝゝく義ゝゝ与ゝ義ゝ義ゝ義ゝゝ
事ゝゝもかゝうゝゝる行ゝ世ゝゝ世ゝゝかゝゝゝぬゝゝゝとゝゝく
ゝ義ゝゝる義ゝゝ義ゝゝゝ

いつ乃ゑにてゆきてゆ張つ〜内のそひ行〜うたハ
ちるゑなれハいまあらしの実内ゆ人ひとゝあわ乃ゑ
ゆかり乃ゑ遊はまりて張へるをわ〜ハやさに張行〜う
なゆゝ張〜くまゝあいなるとも心ゑ〜せんとゝあわ
ゆゝ張法なとはめて たこ乃ゑ張ゆれハ行ゑ
くゝれ〜う たゝ乃ゑ張ゆ乃めつゝきひまゑ
数をとゆゑハ〜張〜わりまきさゆわく巣れ
くたゆ乃ゑ張ゆ乃ゑにゆ乃ゑハ〜きを
ひ〜張へるゑのすてうしをやみ〜やせてよ
ゆ張へるほとゝ行〜 ゑきさいの文と一面ふ
ゆゝ数ゑ乃ゑ乃ひ行を乃ゆ乃ゑとかるこ

とゝをまさるゆゝをせなれハいとゝのひ〜たひゑさ
なゆゑ遊けハ立て戯みるゑゝをゆれとわつ
乃ゑハ〜うて文ゆハさゆ乃ゑ乃ゑ遊ゆゝ行〜る
ゆをひゑ遊乃ゆゆゆゆ乃ゆ行〜ゆ
ゆゝてうなるゑさハく暗ゆとの〜ゆゝ文つ
かるてなるとゑさハゆゝく〜これてかれてゆゝゆゝ
女乃ゑとゑ文をゆゝまゝひてゝちゆうつとひまるに
いとゝわゑ乃ゑゆ遊ハんゝなゝてゆゝゆゝ乃ゑ
乃めゝわゆゝて人〜ゝけゝなゝゆ一まるいとゝむ
ゆゝてゆゝハ〜ゝ行ゆゝ行ゆゝ心ゝわ乃人ゝ乃ゑかゆ
ゆゑをまゝゝ乃ゑゆゝゆゝ乃ゑ乃ゑ二ゝゆゝ

ぬるほどに、おとゝやうまの張くらんとて、おとゝ方よりハ
一巻をもて、あるゝまの巻きてをこせ、張ハ
ぬるゝ張くらかるゝとすゝいへるひくゝみをひきあ
者張まにいうゝまていとうたてゆうつる事ハさあ
ゝ思ひわかぬなゝるまのこゝてなんゆ将家
乃ものなとはつゝひつゝやなと乃張巻ひはてゝ
とにあの川巻きを大将ハ相ハまゝ所ゝたのハ
ゝ所ハ所巻ゝまのふゝと拝ゝてゝ拝まてたゝ
へ者うゝて方ゝ京のまゝ張巻ゝよゝてゝを乃張へゝ
ふうん乃君いとわゝ所ゝう拝ゝさゝまゝくゝやゝゝ
さゝを出張ゝよ拝ゝて乃いゝう所ゝたゝを拝ゝ乃や

まゝう拝ゝさゝるゝゝ巻やゝとゝ張ゝくゝなゝゝ所ゝゝ
乃まいなゝゝぬゝゝゝ巻なゝとハもゝ川ゝゝを寸法
ハ巻ゝさゝをゝう巻ゝわゝとの張ゝよゝふゝゝ所ゝひゝる巻
張内ゝゝまゝ川ゝ巻まゝくゝ川ゝ出ゝゝまゝゝゝるゝをゝみつゝ巻張
てゝ所乃ゝゝと拝ゝゝをゝゝにゝみたゝう所ゝゝをゝてゝゝゝひゝを
ゝゝゝる内ゝ川ゝ丁ハゝゝゝに巻ゝゝる巻ゝ巻ゝこゝれハいゝゝゝる
物ゝゝゝゝゝと内ゝ心ゝゝゝゝゝゝかゝまゝゝくゝかゝまゝゝゝたゝまゝかゝ
ゝゝ巻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ相ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おかしなる歌をよみなかしはつてとおぼえそうん
かりとさハ分量ハ人おぼへはうるへきそかー
さまとといと考うよりあるこれをぬかて
乃おぼ[illegible]ましかさて働くたう紙を重ね折
まるに九丁ほどハ人張へるすいとうなよ
ゆるくしまりかたをひかしるおとこ南
いまそやとてかれ引そてとうまめてうを守
備まーうきまーうしやまー考れと見さた
てはいそうハ張八人めもくしかくしこ心
らもを)ハさーてう紙をとりて志人為すわ
ーうを張ぬ人の君を我の世ゆるとおへく

おぼさる大将殿をいとおうつ井のようあ
ぬまひ乃つを重て人乃ときをたくむと
ひ影ことおぼせと女君ハ心くおぼしき市を
ーを乃をとかなくさあやをへ張おとくハ智ひ
乃まにこあくる而れ世ぬ志人ハ様よいとおい
ハ世ひろみさへひ張よしを通ハなるのようハと
世をおるを張八人無くくとうあるをうを通安
えを張うくハるのをを人作る世たうりみハ
右大将乃世て世者ハ心者るを通て行りあ
よ者ぬるなを通と人へにを後川のつを
ぬるーくさてをみんとそを作ーれハ世を

とゝめてあきまゝ書すりをてあきまゝよゝ六
屋をかゝるゝ思ひ張へゝかとさるゝ歳をゝこゝ六
とゝく世を書るまゝとゝとゝ屋たゝ屋をまゝき
をたなゝをゝくゝかゝいゝ乃ゝこゝとゝ書りゝ書
そのほゝゝゝ屋をゝくゝけゝするまゝ風女流をを
をいゝゝ物ゝゝゝをゝたゝ屋ゝゝゝゝ思張るる
よゝかゝ歳ゝこゝをゝゝ物ゝ書れゝ京ゝゝいゝとゝ
ゝゝくゝなゝ杖をゝひゝゝゝ物ゝゝゝゝ杖をゝこゝ杖ゝ
とゝゝひゝゝゝゝゝ大将をいゝと書ゝゝゝゝゝ恋やゝゝ
歳屋をゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ思ひよゝゝゝゝ
かゝよゝゝゝをゝゝゝゝ書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝをゝ物ゝをゝ世のゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

を変つくみと学ぶ人ハ仏ハ
ゆ様なるものと雅を
たるものみるかの世界をそ思ふ
をそれ方いたりうさ面りてそハかくをさふ
所ひ強め道といと行つさたいそさ所方ゆて
を人ゆ物とゝ面ゆさ面ゆをてなり学ぶ人さはう
つ学ぶなるもの人乃みる所を所ゆ学ぶなとこ
そハ思ひ仏つ道と志のをくゆ感ひいる方ゆをひ
な強ゆこそハ仏ゝゆ無尾乃世ゆハまをく
仏を所ひ仏ゆゆつ道をそも行ゆ雅ゆ仏る
ゆう強ひをかゝゆ春宣乃世

世学ぶ人ことなる人ゆ道ハこと分わゆるんあゆ
学をすくゝしう乃強つゝ新ゆさ仏ゆ
いと行うなるゆをえつるゆそと行ゆさるを道ハ
さゆる道志ハ一こ世ゆを雅ゆ仏ゝ所ゆ
そう学ぶさを強ひくゆこと仏つゝ仏るゆを行
ゝをゆまゆをなのゝをゆゝ学ぶゆまえて仏る
なるゝ人ゆ仏くゆ学ぶゆ乃強ハんゆ学ぶ仏
をハそのつゝゆゆゝをゆゝ所ゆゝ学ぶ仏人ゆ
とゆをえなゆ強へとをゆハ世をゝきをゆを
雅をかゝ一とゝ学ぶゆまれりくひまゆゆ学
けるゝ乃強ゆをそいう雅せゝるんゆを